

静岡県災害派遣福祉チーム(静岡DCAT) 倉敷市派遣と支援活動 ～事務局としての振り返りとお伝えしたいこと～



静岡県災害派遣福祉チーム事務局
社会福祉法人静岡県社会福祉協議会
福祉企画部経営支援課 松浦史紀



初めての派遣事務を経験して・・・

大変だったけど、
全く苦ではなかった

なぜか？

- ・ 登録員のやる気と熱意があった
- ・ 派遣元施設の全面的な協力姿勢があった
- ・ 他県チーム関係者の支えがあった
- ・ 静岡DCATが被災地で必要とされていた



やるべき事務局業務にプラスして、
これらの期待に応える準備をしたかった

菌小学校での活動

静岡DCATができたこと

○ 多職種連携

⇒看護師や保健師、JRAT等と専門性の高い話し合いや活動ができた



○ 避難所の行政職員との連携

⇒行政MTGに参加し、避難所の1日の予定が明確に。福祉チームの情報を提供。

⇒物資搬送、台風対応を率先して協力することで信頼関係を構築した



○ 岡山DWAT主体の活動

⇒他県チーム主導から徐々に地元チーム主導を意識して活動

⇒分館避難者に関するMTGで、地元DWATの有効性を確認



○ 撤退後を念頭に置いた活動

⇒岩手DWAT提案の「集いの場」の設置と運営を協力しながら携われた
地元支援者に引き継ぐことを視野に活動できた。



菌小学校での活動

静岡DCATができなかったこと・反省点・課題

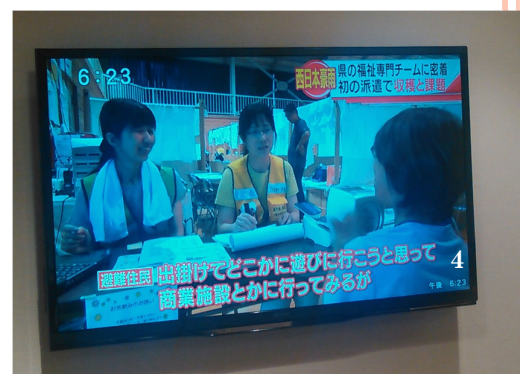
○ 健康管理

⇒1名が体調不良により半日活動休止になった日があった。

○ マスコミ取材対応

⇒本県地元TV局の密着取材による避難者への負担と登録員の怒り。

○ もっとあるはずだが・・・



派遣後の取り組み

派遣された登録員自ら経験を伝える機会を設定

- 新聞社の取材、ローカルFM番組への出演
- 各団体や行政、自治会への出張講座や訓練での報告
- 県社協機関紙への掲載
- 派遣経験を養成研修カリキュラムに反映し、派遣経験を共有
- 派遣経験を活かして訓練に参加



登録員自身が主役となって
活動していく仕掛け

菌小学校で実際に開かれていた
保健・福祉チームMTGを反映し
た会議ロールプレイを実施。途中
で会議を止めて、派遣メンバーが
状況解説を入れて受講者に自分
が参加するイメージを持たせた。

30年度第2回登録員養成研修(9月6日～7日)



静岡県災害対策士業連絡会 ～静岡DCATに学び、士業との連携を模索する～(8月31日)



静岡県・静岡市総合防災訓練(9月1日～2日)



長泉町6施設介護勉強会(9月13日)
～災害派遣福祉チーム「静岡DCATの活動状況」～



障がいをもつ子と家族のための
サバイバルキャンプ&防災ワークショップ(9月15日)



藤枝市総合防災訓練(8月26日)
～派遣登録員による地域住民への活動の説明～



函南町福祉避難所開設訓練(10月28日)
～福祉避難所開設と要配慮者受入支援～



ていく存在が静岡DCATであると考えています。多様なニーズを抱えた要配慮者の中には、様々な理由から自らの大変さや辛さを表現できない方も多くいらっしゃいます。そのような方々に寄り添い、現場レベルで専門性の高い福祉的支援を行うことができる存在としての活動を期待しています。

また、平常時においては「お互いに願っている関係」を行政や地域と築いていただくことを期待しております。静岡DCAT登録員は主に県内の福祉施設等の職員であり、登録員同士のネットワークを使うことで各自自治体や地域住民と接点を持つことが可能であると考えています。結果として、1年余りというこの時期にこそ、その存在と意義をさらに周知していただくとともに、地域での防災訓練や研修会など、様々な場面で行政や地域との協働を積み重ね、地域に根付いた組織として防災の「翼」を担われることを期待します。



7月17日付文書にて、岡山県知事から静岡県知事に静岡DCAT派遣要請がありました。この要請に基づいて静岡DCATは、7月24日から8月5日までの間、倉敷市立園小学校に3チーム、合計12名を派遣し、12日間の支援活動を行いました。今回の活動がチーム発足後、初めての派遣となりました。

倉敷市立園小学校での静岡DCAT支援活動

7月下旬の園小学校では、約250名の方が避難所生活を送っていました。静岡DCATは、岡山DCATを中心に医療・保健の支援者と連携して、避難所内を巡回して支援が必要な方を把握したり、埃による感染リスクから体育館内を守るための出入口の清掃や整理整頓をして生活環境を整えたり、体育館内に「なんでも相談コーナー」を設置し、避難所生活や今後の生活に関する相談や悩みを聞き、必要な情報を提供する活動などを行いました。



避難所運営者に提案し、教室の室を借りて「集いの場」を開設しました。誰でも自由に出入りしたり、お茶を飲みながら会話をしたり、食事をしたりすることができるようになりました。静岡DCATが活動を終了した後は、岡山DWATとぐんまDWATに引継ぎをして活動が続けられ、災害派遣福祉チームとしては9月2日までを活動期間としております。(本原稿執筆時点の情報)

福祉専門職による 災害時要配慮者支援の取組

特集

近年、国内では甚大な被害をもたらす災害が各地で多発しています。東日本大震災以降、災害発生後の避難生活により、心身の状態や持病が悪化して命を落とす、いわゆる「災害関連死」が注目されています。この災害関連死を防ぐ取り組みの一つとして、福祉専門職でチームを編成し避難所等で活動する「災害派遣福祉チーム」が全国各地で発足しています。静岡県でも昨年度に静岡県災害派遣福祉チーム（以下、静岡DCAT）が誕生しました。

平成30年7月豪雨災害においては、本県を含めた複数のチームが岡山県倉敷市で活動しました。今号の特集では静岡DCATについて取り上げ、静岡DCAT登録員や関係する方々からの報告と、倉敷市での支援活動についてお伝えします。

※災害派遣福祉チームの略称は、各都道府県でDCAT (Disaster Care Assistance Team) 又はDWAT (Disaster Welfare Assistance Team) と呼ばれています。



静岡DCATは、福祉施設等に勤務する社会福祉士や介護福祉士、介護支援専門員、保育士等の福祉専門職5名程度で編成されるチームです。災害発生後5日目から1ヶ月程度を活動期間として、被災自治体からの派遣要請に基づいて、避難所等で保健師や看護師の医療系支援者と連携を取りながら、高齢者や障がい者、乳幼児

「静岡DCAT」とは

等、災害時要配慮者と呼ばれる方の福祉ニーズや困りごとを福祉専門職の視点で把握し、適切な支援につなげるため、避難生活の環境改善の提案を行います。

静岡DCATは災害発生後の支援活動だけでなく、平常時には県内各地で、自治体や自主防災組織が行う避難訓練や防災講座に参加したり、民生委員児童委員協議会の研修会で出張講座を開いたりして、日ごろから災害に備えた地域のコミュニティ作りのお手伝いを積極的に実施しています。



昨年、職員の岡本より「こういふ研修があるから、参加してみよう」ということで平成29年度第2回静岡DCAT登録員養成研修に参加しました。

アルファベットのDCATが何を意味しているのかも、あまりよくわからないまま研修に参加したことが正直なところです。

養成研修は座学で災害関連死を防ぐ為、災害が発生した避難所内での①福祉的トリアージ②把握③環境整備④移送支援⑤医療連携などをチームで行っていくということを中心と学びました。演習では実技での移送支援、避難所運営ゲーム(HUG)なども行い、HUGでは机上であっても慌てず、冷静に、実際の災害時を想像すると怖くなってしまいうらい思いもありました。



社会福祉士天心会 福貴 稔氏

派遣を終えてこれからの活動

これまでの出張講座や訓練内容の見直し

- 平時からの専門職支援者同士の連携強化をめざす
 - ⇒JRATとの合同による平時の活動展開
 - ⇒医療職(医師・看護・保健・歯科・薬剤・栄養・心理)に向けた周知活動、顔合わせをしていきたい
 - ⇒士業(司法・建築など)との関係構築の模索
 - ⇒専門職が集まり情報交換する場ができれば・・・
 - (kura-doroの平常時版を開催できたらいいなあ)

- 市町行政主催訓練への積極参加

- ⇒派遣要請元に活動を正しく知ってもらうことが必要¹⁰
- ⇒実際の支援活動を想定した訓練の実施

これから立ち上げる各県の皆さんへ

(県社協が事務局を担う場合)

- ワンオペは×。災害派遣福祉チームの業務は複数担当制で。
(登録員管理・平時の活動・養成研修・会議・派遣調整・事後処理・情報発信)
丁寧にやろうとすればするほど一人ではムリ！！複数人が派遣調整事務までできるようにしておく必要有。担当が災害に巻き込まれたらチームを派遣できないでは本末転倒。⇒担当して強く感じている課題で、組織の課題として提起したい。
- 組織のトップに本事業の重要性和、チームの活動を正しく理解してもらうこと。
どういう仕組みで派遣されるのかをしっかりと理解しておいてもらう必要有。
⇒パフォーマンス映えするのでトップは派遣要請を待たずしてすぐに派遣させたがる。
- 登録員(チーム員)が平時から参加できる、顔を合わせる活動をできるだけ多く作ることが大切。本人たちのモチベーションの維持と意識付け。
自分ごととして災害派遣福祉チームの一員と考えてもらうことが大切
＜事務局⇄登録員＞＜事務局⇄登録員所属施設長＞＜登録員⇄登録員＞
これらの関係性ができていると、派遣調整がスムーズにいく。
- 県と事務局の役割を明確に示しておく

11

普段からの取り組み、働きかけること

- 定期的な情報発信⇒関係性の維持と当事者意識の刷り込み
- 地域に出向く⇒登録員同士のつながり、研鑽機会の提供
- 派遣に備えた最低限の備品用意⇒PC、プリンタ、ビブス
- 県を越えた登録員(チーム員)の交流⇒研鑽とつながり
- 事務局同士の交流⇒既存様式や研修カリキュラムの共有
- 何かと頼める登録員(チーム員)を確保しておく
- 外部から参加を頼まれたら基本断らない姿勢が大切

災害派遣福祉チームと他の災害支援団体との違いって何だろう？

- ・ 日ごろから地域で災害に備えたネットワーク作りに参加できること。
- ・ 登録員が地域に散らばっていることで県域で平時の活動が可能であること。
- ・ 派遣経験が自施設や地域の災害対策につながる
- ・ 県が組織に関係していることで地域住民や民生委員、市町行政からの信頼が厚く、頼みやすい、相談しやすい⇒平時の活動対象が広がり、認知度も高まる。

12

比較項目	災害派遣福祉チーム	NPOやNGO等災害支援団体
被災地派遣	被災自治体からの依頼 (広域派遣調整機能は未整備)	自発的
被災自治体・地域からの信頼度	◎ (但し認知度はこれから)	△ (団体により異なる)
支援スピード/活動期間	△ (発災5日目以降～1ヶ月)	◎ (即行動～長期間)
避難所支援ノウハウ 経験値	× (これから)	◎ (豊富)
ネットワーク・コネクション	◎ (地元DWAT・DCATが地域に精通)	◎ (他団体とのつながり先が多い)
活動資機材	×	○
専門スキル	◎ (福祉専門職・有資格者・ 種別横断で編成) 地域の社会資源に強い	○ (有資格者とは限らない)
活動実績	△ (これから)	○ (被災地での活動実績が豊富)
地域での平時の活動	◎ (広域で多数に展開が可能)	△

